

## 【第119回生涯教育講座】

## 慢性副鼻腔炎の病態と治療

かわ うち ひで ゆき  
川 内 秀 之

キーワード：鼻副鼻腔炎，好酸球性副鼻腔炎，破壊型副鼻腔真菌症，  
フェノタイプ，抗真菌薬

## 諸 言

上気道の炎症性疾患の代表的なものとして、アレルギー性鼻炎と副鼻腔炎がある。発症における病因論の立場から考えると、副鼻腔炎は上気道の細菌感染を契機として引き起こされる急性ならびに慢性の感染性炎症であると規定される。副鼻腔炎に関しては、アレルギー性鼻炎を合併した慢性副鼻腔炎や下気道の喘息を伴う好酸球性副鼻腔炎の存在が注目されており、急性や慢性の副鼻腔炎の病態から見た表現型（フェノタイプ）に基づいた分類と治療指針が提唱されている<sup>1,2)</sup>。しかしながら、アレルギー性鼻炎を合併した難治性慢性副鼻腔炎や好酸球性副鼻腔炎など、マクロライドの少量長期投与など通常の保存的治療で改善が得られない症例も数多く見られ、これら難治性の症例の治療法の確立が待望されている。本稿では、慢性副鼻腔炎の分類と治療法について解説する。

## 鼻副鼻腔炎の定義・診断

## 1. 定義

鼻副鼻腔炎とは、鼻副鼻腔の炎症により、鼻閉、

鼻漏、後鼻漏、咳嗽といった呼吸器症状を呈する疾患で、頭痛、頬部痛や嗅覚障害などを伴う疾患であると定義される<sup>1)</sup>。鼻内所見では、膿性、粘膿性もしくは粘性の鼻汁や鼻粘膜腫脹、または鼻茸を認める例も多い。画像検査により副鼻腔に陰影を認める。鼻腔のアレルギー性炎症を伴う副鼻腔炎も存在する。発症後1か月以内に症状が消失するものを急性副鼻腔炎とし、細菌感染もしくはウイルス感染が主因と考えられ、鼻汁は膿性であることが多く、頬部痛や発熱といった急性炎症症状を伴うことがある。3か月以上鼻閉、鼻漏、後鼻漏、咳嗽といった呼吸器症状が持続するものを慢性副鼻腔炎とする。慢性副鼻腔炎では、副鼻腔粘膜および中鼻道自然口ルートに治癒し難い形態的および機能的な障害を生じていることが多い。

## 2. 病型分類

欧米では、慢性鼻副鼻腔炎（chronic rhinosinusitis）を鼻茸の有無によって分類しているものが多い<sup>3)</sup>が、国内では、特殊型として、好酸球性副鼻腔炎、真菌性副鼻腔炎（寄生型、侵襲型）、アレルギー性真菌性副鼻腔炎といった臨床病理学的な分類を使用している（表1）。従来の好中球を浸潤細胞の本態とする副鼻腔炎の臨床病理学的特徴は、副鼻腔の慢性感染性炎症であり、保存的治療として、マクロライド療法が有効である。し

Hideyuki KAWAUCHI

島根大学医学部耳鼻咽喉科学講座

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部耳鼻咽喉科学講座